



2011年3月、原子力災害によって避難を余儀なくされた地域の学校は休校になりました。避難が長期化する状況で、多くの自治体が避難先に仮設校舎を設置するなど、子どもたちの学びの保障に取組みました。避難先の教育現場では、限られた資源の中で多くの工夫がなされ、新しい実践も生まれました。

これまで避難先の学校の状況は入学式や卒業式、さらには節目とされる時期に度々取り上げられてきましたが、学校の〈日常〉が報じられることは限られていきました。本シンポジウムでは、避難を経験した生徒、教員、行政などの関係者と共に、避難先の学校生活や教育実践を振り返り、教育のこれからについて考えたいと思います。

2026年
2/13 金

参 加 無 料

14:00～16:30
開場 13:30

福島大学 フクニチャージ図書館
(附属図書館) 1階 アリアコモンズ1

対象

本テーマに関心のある方であれば、
どなたでもご参加いただけます。

定員

先着100名 ※事前のお申込みが必要です。

主催／福島大学「地域×データ」実践教育推進室

後援／福島県、福島県教育委員会、

福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会

お問い合わせ



福島大学
「地域 × データ」実践教育推進室
tel.024-503-2014
region-data@adb.fukushima-u.ac.jp

原子力災害、 仮設校舎の15年

避難先の学校から考える
理想の教育

福島大学「地域×データ」実践教育推進室
第4回公開シンポジウム



プログラム

Program

● 14:00～14:15 開会・開会あいさつ

● 14:15～14:30

原子力災害による避難と学校

「地域 × データ」実践教育推進室 特任准教授 千葉 偉才也

● 14:35～15:00

避難先での教育実践と新しい学校づくり

双葉町教育委員会 教育総務課 主幹兼指導主事
前文部科学省 初等中等教育企画課 教育制度改革室 専門職
元川内村立川内小学校教諭 渡邊 智幸 氏

● 15:00～15:15 休憩

● 15:15～16:20 パネルディスカッション

私たちは避難先の学校から何を学ぶのか

双葉町教育委員会 教育総務課 主幹兼指導主事 渡邊 智幸 氏

元浪江町立浪江中学校教諭 荒 寿子 氏

避難先の学校の就学経験のある卒業生

「地域 × データ」実践教育推進室 特任助教 久保田 彩乃

● 16:20～16:30 閉会・閉会あいさつ

事前申込制

URLもしくはQRコード
よりお申込みください。

URL▶ <https://forms.gle/cUVgzCPKfNiQF1RU6>

申込期限 2026年 2月9日(月)

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

※申し込み期限は、状況により変更される場合がございます。

